新春敬白

ご参詣の皆様方におかれましては日頃より本徳寺の維持にご協力頂き感謝する次第です。年頭にあたり、あらためて御礼申し上げます。

さて、知事選では前代未聞の逆転劇がありました。善し悪しは別にして、既得権をもった従来型組織が新興のデジタルパーソナルなネット勢力に大敗するという歴史的な転換を目の当たりにしました。娑婆世界は確実に変化の真っ只中にあるようです。

お寺も娑婆に身を置く以上、この新しい時勢の動向を避けて通ることは出来ません。

核家族化と少子化による伝統的な本末関係・檀家制度の崩壊、葬儀と法事に重きを置く供養の商品化、骨事業にシフトした永代納骨など、これら従来の既得権に依存した経営は変更を余儀なくされつつ有ります。残念なことに当方にはそれを回避する妙案が見当たりません。

諸苦毒中・我行精進をいただいて進むしかありません。娑婆の迷い道を信心の智慧を頂いて、生きぬいて往こうと思います。本年もよろしくご教導ください。

亀山本徳寺

本徳寺のお仏壇

現在、本徳寺にはお仏壇が七つある。本堂、蓮如堂、廟堂、内道場、書院、茶所、そして庫裏である。聞くところによると他に三つあったらしい。一つは門徒宿泊所の解体と共に世話役に引き取られ、一つは近縁のお寺のお内仏として、そして、総会所は本堂として飾磨のお寺に移設されたと聞く。

過去において最大十のご本尊が安置されていたことになる。これだけあるとお給仕もお世話も大変である。勿論、住職一人では無理で、本堂・蓮如堂は別にして、他は総て法務員や世話役・同行の報恩行による。とりわけ茶所と庫裏は建物を含め、その管理・運営は世話役・同行の維持であった。

本徳寺は中世由来の念仏道場を起源とする。時代の変遷を経る中で、お寺の形態も変化してきた。一般には庫裏は住職の住まいと思われているが、本徳寺の場合、世話役の食堂や宿泊に利用されていた。茶所は講員の休憩所としての役割を担っていた。経堂の裏の池に残存する石柱に残された二十五の講社名からも推察されるように、江戸時代の檀家制以前では、これら庫裏や茶所は、同行門徒による講組織がサポートしていたことをうかがい知ることができる。

現行は、本堂・蓮如堂と住職の仏間である内道場では毎日欠かさず朝事が勤まる。蓮如堂でのご法話を含めると1時間半のお勤めである。ちなみに、廟堂は英賀保にあるため常駐の法務員が住職の代行でお給仕をする。

一年三六五日、毎日ともなると相当の覚悟と努力が必要だ。しかし、あり難いことにこの日常になれてしまうとそれほどストレスはない。その上、三帖和讃の繰り読みを通して毎回新しい発見があるので飽きることはない。最後に、参拝者に蓮如堂で和讃のお味わいを語るのが楽しみでもある。

しかし、現在は庫裏や茶所のお仏壇は普段使用されることはない。そのため傷みが進んでも修復には相当な費用がかかり、今のお寺の会計では負担が多いため長らく手入れがなされなかった。幸いなことにこのお仏壇のお洗濯があるご門徒の懇念によってなされることになり、昨年半年掛けて全面修理をし、今年御正忌報恩講のご満座の日に入仏式を行うことになった。

私がこのお寺の住持に携わって、本堂内陣、蓮如堂、内道場の修理に続き四度目の仏壇修復である。いずれも奇特な門信徒のご懇念による。今後、庫裏における仏事が営まれ、門徒・同行の勤行が盛んになれば、これほど嬉しいことはない。有り難いことである。

本徳寺・大谷昭仁